

Proficiency Scale (TOEIC® L&Rスコアとコミュニケーション能力レベルとの相関表)

L&R TOEIC® Listening & Reading Test

TOEIC L&R スコア	レベル	評価 (ガイドライン)	企業が期待するTOEIC L&Rスコア(※1)	TOEIC L&R 平均スコア(※2)	
				ビジネスパーソン	所属学校
860	A	<p>Non-Nativeとして十分なコミュニケーションができる。</p> <p>自己の経験の範囲内では、専門外の分野の話題に対しても十分な理解とふさわしい表現ができる。Native Speakerの域には一歩隔たりがあるとはいえ、語彙・文法・構文のいずれをも正確に把握し、流暢に駆使する力を持っている。</p>			
730	B	<p>どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えている。</p> <p>通常会話は完全に理解でき、応答もはやい。話題が特定分野にわたっても、対応できる力を持っている。業務上も大きな支障はない。正確さと流暢さに個人差があり、文法・構文上の誤りが見受けられる場合もあるが、意思疎通を妨げるほどではない。</p>	<p>海外部門</p> <p>805</p>		
470	C	<p>日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる。</p> <p>通常会話であれば、要点を理解し、応答にも支障はない。複雑な場面における的確な対応や意思疎通になると、巧拙の差が見られる。基本的な文法・構文は身につけており、表現力の不足はあっても、とにかく自己の意思を伝える語彙を備えている。</p>	<p>705</p>	<p>◀ 海外部門 689</p> <p>◀ 内定者 617</p> <p>◀ 大学院 565</p> <p>◀ 営業部門 548</p> <p>◀ 新入社員 527</p> <p>◀ 技術部門 499</p>	
220	D	<p>通常会話で最低限のコミュニケーションができる。</p> <p>ゆっくり話してもらおうか、繰り返しや言い換えをしてもらえば、簡単な会話は理解できる。身近な話題であれば応答も可能である。語彙・文法・構文ともに不十分なところは多いが、相手がNon-Nativeに特別な配慮をしてくれる場合には、意思疎通をはかることができる。</p>			<p>◀ 大 学 471</p> <p>◀ 専門学校 462</p> <p>◀ 高 校 434</p> <p>◀ 短 大 394</p> <p>◀ 高 専 385</p>
10	E	<p>コミュニケーションができるまでに至っていない。</p> <p>単純な会話をゆっくり話してもらっても、部分的にしか理解できない。断片的に単語を並べる程度で、実質的な意思疎通の役には立たない。</p>			

※1:「上場企業における英語研修・英語活用の実態調査 2022」より。中心値を期待スコアの平均値とし、「プラス・マイナス1」標準偏差に相当するゾーンを「期待値の幅」と仮定。

※2:2023年度IPテストデータより

TOEIC® Listening & Reading Test(以下、TOEIC L&R)を開発・制作した米国の非営利テスト開発機関ETSでは、Communicative Proficiency(コミュニケーション能力)とTOEIC L&Rスコアとの相関について裏付・検証調査(Validity Study)を実施いたしました。上記 Proficiency Scaleは、その調査結果から作成されたものです。各自のTOEIC L&Rスコアが「どの程度のProficiencyか」の目安としてご参照ください。

ただし、このProficiency Scaleは本来、それぞれの状況や、各自の置かれたコミュニケーションの環境を考慮して解釈されるべき性格のもので、すなわち、実際のScore Interpretation(スコアの解釈)は、現実に英語力を求められる個人や学校、あるいは企業・団体によって規定されることとなります。